



彼らはソビエト共産党のような暴力革命はしませんでした。なぜしなかったのか。西ヨーロッパには選挙制度が成立していたからです。社会主義政党であっても、選挙で第一党として選ばれたら政府として成立するので、血を流すことなく社会主義的政策が実施できるのです。革命はたくさんの血が流れるわけで、非常なリスクを冒すことになる。そんなことしなくても選挙という方法があるので、ソビエト共産党のあの暴力革命に与することはなかったんですね。

しかしソビエトとしては、この暴力革命を何としても推し進めて、世界中の国々を共産主義にしたかった。そうしないと、資本主義の国が共産主義思想を危険思想として潰しにかかってくるといふ被害者意識があったのです。この被害者意識は正当なものです。

当然みんな「こんな危ない思想。やばいんじゃないか」と思うんですね。

しかし、暴力革命にはだれも乗ってこない。

そこで別の手を打つことになりました。それが“トロイの木馬”作戦。潜行工作ですね。

その指令を出すのがコミンテルンという中央組織です。

世界中に共産主義を広めていくコミンテルンは、ソ連共産党の支部として、世界中に共産党を設立させたのです。

次に、そこに所属している共産党員を、身分を隠した上で、その国の様々な組織の中に潜り込ませます。様々な組織とは例えばマスコミ。これは世論操作に大きな力を大きな力を持っています。労働組合。労働組合は「もっと給料上げてくれ」ということで労働者なので、入り込みやすいんですね。国の各省庁の官僚組織。国が何か政策を実施していく時、その政策の立案をするエリートたちに共産主義思想が入っていくなら、国に大きな影響を与えることができます。

軍隊・軍部。兵士や下士官・将軍の中に共産主義に共鳴する人たちを作り出すことができれば、いざと言う時動かすことができます。

このような組織の中に共産党員が潜り込んで、その国の世論に影響を与えていく。

いわゆるスパイ活動ですが、潜行工作はスパイ以上なんです。スパイはその国の機密情報を盗み出してソ連本国に伝えていく。もちろん、これも重要なミッションだと思いますよ。

しかし、潜行工作で行われたのは、もっと恐るべきことだったのです。

単に情報を盗み出して外側世界に通知するだけでなく、その国家の重要な方針や政策に直接影響を与え、ソ連に有利になるような国の運営をするように働きかける、という工作をして来た。

そのように国全体を誘導していくミッションを帯びていたのが潜行工作の工作人员たちです。

皆さんは寄生虫のハリガネムシをご存じですか。

よくカマキリがハリガネムシの幼虫を食べるんですね。食べられたハリガネムシは、カマキリの腹の中でどんどん成長します。そして大きく成長すると、カマキリの脳に化学物質を分泌して、カマキリが川などの水辺に行き身投げ自殺するように誘導するんですね。

カマキリは泳げません。しかし、自分の体の中に巣くっているハリガネムシが脳におかしな指令を与えて、自ら自殺行為に走るんです。



カマキリが水の中に身投げすると、ハリガネムシは水生生物なので、カマキリの腹の中からむにゅっと出てきて、そこで繁殖するんです。恐ろしいですねえ。何かの昆虫に取り付き、脳をコントロールし、自分が寄生している虫を自殺に追い込む。

ソ連共産党がやったのはまさにそれなんですね。共産主義のソ連は世界に1つしかなかったのに、共産主義の国々が次々に増えていった。また、共産主義にはならなかったものの、ギリギリのところまで危機に陥ったり、しなくてもよい大戦争を始めるに至ったりということが相次ぐのです。

日本も例外ではありませんでした。今回は、日本がソ連共産党の潜行工作によって、とんでもない道に入ってしまった実例を紹介しますので、よければお付き合いください。

チャンネル登録もよろしくお願いします。ではまた、ごうちゃんねるでお目にかかりましょう。さよなら！